

令和6年度水道事業会計予算概要

1 基本方針

現在、本市の人口は増加傾向にありますが、将来的には減少に転じ、あわせて給水人口や給水収益も減少していくと推測されます。

一方で、浄水場、配水場や管路の老朽化が進み、その更新需要は更に増加していく見込みです。また、災害時においても安定した給水を行うため、耐震化対策を推進する必要があります。物価高により工事費用が上昇する中、これらを計画的に進めていくことが課題となっています。

水道局では、このような環境の変化や脱炭素などの重要な課題に対応するため、「さいたま市水道事業長期構想(2021-2030)」(令和3年3月策定)の下、財政とバランスの取れた施設整備やデジタル化の推進などを通じ、効率的かつ効果的に事業を運営していく必要があります。

2 令和6年度の主な取組

(1) 水道施設整備事業

重要なライフラインとしての効率的かつ安定的な給水を確保するため、老朽水道管の更新事業を中心とした水道施設整備を計画的に推進します。

- 水道施設整備事業
 - (1) 地下水源の整備
 - (2) 拠点施設の整備
 - (3) 配水管の整備
 - (4) 老朽管の更新
 - (5) 耐震化の推進

(単位:百万円)

	令和6年度	令和5年度	対前年度	
			増減額	増減率(%)
水道施設整備事業	14,919	14,289	630	4.4%

(2) デジタル化の推進

DXによる行政手続きのデジタル化を推進するため、スマートメーターの実証実験を行います。また、水道施設の維持管理などへのICT技術の活用を推進します。

(3) 国際協力の推進

水道局で培った経験や技術力を海外で生かすため、ラオス国への技術支援を推進します。

(4) 経営健全化の推進

■ 企業債の効果的活用

水道施設の更新需要が大幅に増大する中、強靱な水道を構築するうえで、企業債は必要不可欠な財源となっています。

一方、人口減少に転じた以降の世代に対する負担を考慮する必要もあることから、アセットマネジメントや内部留保資金の活用により、バランスのとれた財源調達を行っていきます。

(単位: 百万円)



■ 既存業務の見直しによるコスト抑制

既存業務の執行方法等の見直しを行い、更なる事業経営の効率化に努めることで、支出の抑制を図ります。

3 予算規模

(1) 業務の予定量

		令和6年度	令和5年度	増減
給水件数	件	649,835	641,527	8,308
年間総給水量	m ³	133,870,990	136,842,930	▲2,971,940
一日平均給水量	m ³	366,770	373,888	▲7,118

(2) 予算の状況

■ 水道水をお届けするための予算(消費税込み)

(単位: 千円)

	令和6年度	令和5年度	増減
収益的収入	33,457,303	33,743,673	▲286,370
収益的支出	29,547,058	29,392,148	154,910

■ 施設を整備するための予算(消費税込み)

(単位: 千円)

	令和6年度	令和5年度	増減
資本的収入	7,535,380	7,336,718	198,662
資本的支出	21,752,935	22,125,167	▲372,232

※ 不足額については、損益勘定留保資金や純利益などで補填します。損益勘定留保資金とは、減価償却費など実際に現金の支出がない費用計上によって生じた資金のことです。

※ 令和5年度欄は、当初予算額